

中高生向けメディアリテラシー養成テスト制作

ー成熟した民主主義社会を目指してー

Creating the Media Literacy Growing Test for Students
-Toward a Mature Democratic Society-

伊集 舞奈・段 エディ・山城 佑介

郁文館グローバル高等学校メディアデザインゼミ

日常に溢れかえっている情報。グローバル化と高度情報化が加速する社会の中で、虚偽や誤情報が蔓延り、本物であることを証明することは困難と化した。フェイクニュースやオルタナティブファクトは社会に蔓延し、ポストトゥルースの時代とまで言われている。そのような社会の中で人々は、情報が持っているメディアメッセージを多角的に判断する力、「メディアリテラシー」を養う必要がある。市民のそれを養わなければ、健全な民主主義社会を創り上げるのは難しい。そこで私たちはメディアリテラシーを「テスト」の形にし、普及しやすく、且つ教育の中に取り込みやすくすることで、学生のうちからその力を培うことが可能であると考えた。多様な角度からメディアリテラシーを養うこのテストは、3部構成で段階的に力をつけることが可能となっている。これを用いて私たちは、社会のメディアリテラシー養成を目指す。

キーワード：メディアリテラシー，テスト，中高生向け教育，高度情報化社会，民主主義社会

1. はじめに

1.1. メディアリテラシーとは

メディアリテラシーとは、テクノロジーの発展やグローバル化に伴い進化した21世紀の複雑で多様なメディアから、メディア・メッセージ（社会的文脈によって多様に読み解かれるもの）を受け取り、そのメディア・メッセージが異なる記事の書き方や報じ方によって、どのような立場の人がどのように解釈するのかを考える力である。また、その評価からデジタル公共圏でのコミュニケーションへ向けて自らメディアを創り出す能力もメディアリテラシーと呼ぶ。

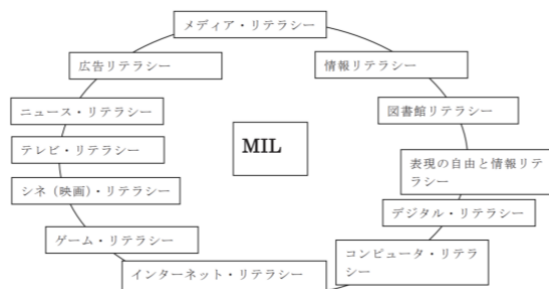


図1 UNESCO, Media and Information Literacy (MIL) の認識

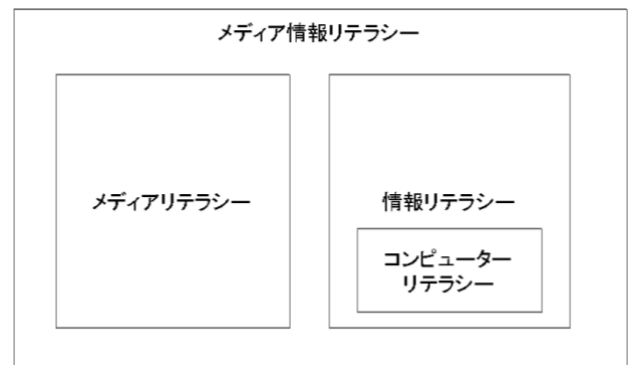


図2 私たちメディアデザインゼミの定義

1.2. 背景と目的

社会には他にも様々なリテラシーがあり、それらもまたとても重要である。ではなぜ、私たちがその中でもメディアリテラシーを鍛えられる教材づくりに取り組んだのか。それは世界の変化にある。グローバル化、高度情報化により多様化された情報が国境を越えボーダレスに行き来するようになり、エリアや人によって情報の解釈のされ方が変わるシチュエーションが増えてきた。そのような変化の中でもメディア・メッセージを眼光紙背に徹し、共有するためにメディアリテラシーが必要であると考えた。

私たちには、個々の安全に対するものだけでなく、市民全体で取り組むべき対策が求められている。2016年、波乱の米大統領選では様々な誤情報や偽情報が社会に蔓延した。本物である証明が難しくなり、ポストトゥルースの時代とまで言われた。このままでは私たちの民主主義社会が揺らいでしまう。情報は民主主義の要であり、健全性を保つためには、市民全体のメディアリテラシーの底上げが急務だ。私たちは「教育」こそが現代社会を生き抜くための最も根本的で、基礎的、かつ効果的な対策であると考えている。

高度情報化社会では、個々の安全のためにも、民主主義社会の安定のためにも、市民全体がメディアリテラシーを身につける必要がある。しかしながら、それは一朝一夕で身に付くものではない。長い教育の過程において身につけるのが効果的であり、すでに様々な取り組みが行われている。例えば、経済産業省や文部科学省は現状のデータを取りまとめた上で、対策セミナーを開催したり、GREE等のモバイルアプリ会社では対策アプリの開発を行ったりしている。

しかしながら、現状の取り組みで対策できるのはあくまでも「個々」の安全のための、いわゆる情報メディアリテラシーであり、膨大で多様な情報によって「社会」が惑わされぬようにするものではない。しかし、健全な市民社会のためには、SNSの使用に関する注意点を教えるのだけではなく、情報が膨大でそれぞれ断片的であっても本質を見抜くことが必要であると考えている。テストを普及させることが出来れば、市民がビジネスなど、特定の意図を持ったフェイクニュース等の偽情報に騙されにくくなるだろう。それだけでなく、世の中を俯瞰しやすくなることで、プロパガンダ的なフェイクニュースにも騙されることなく、健全な民主主義社会に寄与できると考える。

私たちは何十ページにも及ぶ文書を読ませる等の堅苦しいことはせず、忠実に実際起きたフェイクニュースの事例に似せた問題のテストを中高生を対象に普及させたい。高度情報化社会に蔓延する様々なフェイクニュースやプロパガンダから、個々の安全を、そして民主主義社会の安定を守るために、私たち市民全体がメディアリテラシーを身につけ、鍛えることが今こそ必要だ。メディアリテラシーテストを学生向けに普及させることは、現代の情報化社会の負の作用に対抗する最善の策だと私たちは考えている。

2. 研究方法

2.1. 制作過程

短時間で身につけることが困難である複雑なメディアリテラシーを鍛えさせるために、なぜテストという形式にしたか。それは、より全国に普及しやすくするためである。既に総務省から出されているメディアリテラシー向けの教材はあるものの、殆どがワークショップ形式のものであり、開催に手間と時間がかかる。成熟した民主主義社会を目指すためにメディアリテラシーを身につけさせるのであれば、最終的に広く普及させなければいけないため、テストという形にした。

メディアデザインゼミのリテラシー班6人で4月より制作し、6月に第一版ができ、多くの専門家の方々に意見を頂いた。8月に制作された最新バージョンのテストは、3部構成になっており、テストを解く中で段階的にリテラシーが身につけられるように設計されている。

メディアリテラシーといっても内容は多様である。発信側の意図を正確に読み取れるリテラシー、立場や状況によってどう読み取れるかを考えるリテラシーなどがある。そこで私たちは最初にその「リテラシー」をどのような社会問題に向けたものとするかを定めた。結論から述べると、成熟した民主主義社会の形成へと貢献できるリテラシーを鍛えられるテストを制作することにした。というのも、総務省に提供していただいたメディアリテラシー教育の現状を見れば、それらは社会のためになるリテラシーではなく、個の安全のためのリテラシー教育ばかりであったからだ。

しかしメディアリテラシーとは、情報を疑い、あるいは信じ騙されるプロセスの中で身につくものであるのは確かで、文章のテストのみで受験者をそのプロセスに導くのはとても難しかった。メディアリテラシー獲得に効果的かつ習得可能なレベルとすることを意識し、表1の構成とした。

2.2. テスト構成

表1：テストの構成に関して

	<問題形式>	<回答形式>	<期待できる効果>
PART1 短文 問題	実際のニュース記事をベースに一部名称などを改変して作成され、「Q1事実は何？Q2真実は何？Q3虚偽(無記載)は何？」の3問を1記事につき問う。(計3記事)	一つの記事に対し3つの選択肢が用意されており、事実・真実・虚偽(無記載)のいずれかに当てはめる(重複なし)。	事実と真実を見分けるリテラシー、主観と客観を区別しながら情報を得る力が身に付く。真実の精査に入る前のプロセスに必要な力とも言える。
PART2 長文 問題	普遍的な人物(例:桃太郎)を登場させた世界で、派閥対立などによる様々な事件が起きる。それに関する記事が「新聞・インタビュー・ツイート」の形式で複数用意されている。そして、文章中から読み取れる真実に関して、「発信者・立場・詳しさ・裏付け」の観点から全ての記事を合わせて計4問問う。	一つの問いに対して4つの選択肢が用意されている、選択問題。一つのみ選べ、正解もひとつ。	事実とは社会的文脈によって異なり、主観的であることではしばしば異なる解釈(真実)とされるのだということを直感的に理解する。そして、意見の発信された立場や状況を思慮に入れ、客観的にそれを比較する力が身に付く。
PART3 要約 問題	インタビュー形式で、対立する3つの意見が登場する。1つの意見から3つの主張を取り出してそれぞれの要約を問う。	文章内にある対立した意見が持つ、それぞれ3つの主張の理由を10文字以上20文字以内で要約する記述式。	情報を正確に要約し、デジタル公共圏でコミュニケーションを行うための能力が身につく。ここでの正解とは、他人による解釈の変容性が相対的に低いことである。

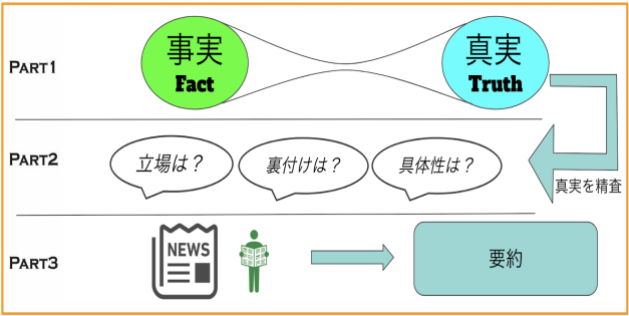


図3：テストの構成を可視化したもの

Fact (事実)	単数存在する ○ (絶対客観的)	事実がゆがむと…誤情報 / 偽情報 vs 対抗策: 調査報道 or ファクトチェック
Truth (真実)	複数存在する ○○○ (殆どで主観的)	真実がゆがむと…偽情報 vs 対抗策: メディアリテラシー

<辞書での定義(広辞苑 第六版)>
事実...事の真実。真実の事柄。本当にあった事柄。
真実...うそいつわりでない、本当のこと。まこと。

図4：事実と真実の区分

3. メディアリテラシーテスト(本稿ではPART3は省略)

3.1. メディアリテラシーテストPART1 短文問題

表2：短文問題(PART1), 問いの内容

	〈記事と選択肢〉	〈正解と理由〉	〈解説〉
第一問	【残念すぎる内容で物議を醸した高額イベント「Pyele Festival」開催無期延期を発表】 「超ぜいたくな音楽祭」という触れ込みだったにもかかわらず、あまりにもがっかりな内容から物議を醸したイベント「Pyele Festival (ピエレー・フェスティバル)」。個人所有の島で行われたイベントで、そのチケットは3000～2万ドル(約36～240万円)と高額だったものの、電気や水の提供が不十分だったり、食事として簡単なサンドイッチが出されたりと、料金にそぐわない内容であったため、SNS上で参加者から怒りの声が続出。開催当日に、無期延期が発表されました。 Q1, 事実は何れ? Q2, 真実は何れ? Q3, 虚偽又は無記載は何れ? A「食事がひどかった」 B「食事サービスに不満があった」 C「サンドイッチしか出なかった」	Q1(事実は何れ)の正解はB。 →記事に「SNS上で参加者から怒りの声が続出。」という文があったから。続出したかは別として、不満があったのは事実である。 Q2(真実は何れ)の正解はA。 →「食事として簡単なサンドイッチが出されるなど、料金にそぐわない内容」という一文から、推測できる。しかし、選択肢Bと比べたときに、より主観的な意見である可能性が高く、真実となる。 Q3(虚偽又は無記載は何れ)の正解はC。 →サンドイッチが出た事を示す文はあるが、サンドイッチだけだったのかについて明確に示す文章は含まれていない為、虚偽(無記載)となる。	記事内に含まれていた事実、真実、虚偽(無記載)として、以下が挙げられる。 《事実》 ・音楽祭が開催された ・有料チケットが販売されていた(36～240万円) ・無期延期が発表された 《真実》 ・ぜいたくな音楽祭が開催された ・チケットが高額だった ・サービス提供が不十分だった 《虚偽(無記載)》 ・参加者の不満により無期延期が決定した ・停電や断水が発生した ・参加者が怒りにより暴動を起こした
第二問	参考にした事件：足利事件 題文： 少女殺害事件 1990年5月、当時4歳の女の子が殺害された。女の子の遺体は織田川の河川敷に放置され、犯人は逃走。1991年12月、事件当時バスの運転手だった、太田信長容疑者(当時45歳)が逮捕された。その理由は、女の子の下着に付着していたDNAと太田のDNAが100%一致したからだった。その後の新DNA鑑定技術はより正確なものとなり、太田が新DNA鑑定を受けたところ、女の子の下着に付着していたDNAと太田のDNAが不一致の可能性が13%の確率であった。しかし、太田が犯人である確率はまだ高い。	Q1 (事実は何れ) の正解はB。 →技術の進歩により正確な鑑定となった、という記述あり。 Q2. (真実は何れ) の正解はC。 →警察の捜査により、このことが断定されてはいるものの、選択肢Bと比べた時により警察の主観性が高く、真実となる。しかしながら選択肢Aと比べた時にも、殺人犯は下着に触れていない可能性を科学的(客観的)に否定できないので、真実となる。	記事内に含まれていた事実、真実、虚偽(無記載)として、以下のようなものが挙げられる。 《事実》 ・少女殺害 ・少女遺体が河川敷に放置 ・太田信長が逮捕 ・犯人は逃走(=その場になかった) ・最初のDNA鑑定で女の子の下着に付着していたものと容疑者(仮)のものが一致

	Q1, 事実は何れ？ Q2, 真実は何れ？ Q3, 虚偽又は無記載は何れ？ A 「犯人は太田」 B 「最初とその後のDNA鑑定結果が異なる」 C 「女の子の下着に付着していたDNAは犯人のもの」	Q3(虚偽又は無記載は何れ) の正解はA。 →新DNA鑑定の結果によると、13%の確率で女の子の下着に付着していたDNAと太田のDNAが不一致の可能性が出てきた。そのため真犯人が別にいる可能性があり、犯人を太田と決めつけられない。	- しかしその後にDNA鑑定技術が進歩し、より正確になった 《真実》 - 警察が太田信長を犯人と断定 - 真犯人が別人である可能性 《虚偽(無記載)》 - 犯人は太田
第三問	参考にした事件：マルセル盗難事件 題文：モナリザ盗難事件 1968年11月、当時沖縄国立近代美術館で開催されていた「日本モナリザ展」中に、「日本モナリザ展最終日にモナリザを頂きに参ります ○○○三世」という盗難の予告状が届いた。当時の警察は「ただのいたずらだろう」と判断したが、当日、予告状通りモナリザは盗まれてしまった。盗んだ犯人は逮捕されたが、警察の予想に反して予告状は出していないと主張。また、モナリザは当時フランスの美術館から借りていたので、賠償金を請求された。 ※○○○三世は偽名とする。 Q1, 事実は何れ？ Q2, 真実は何れ？ Q3, 虚偽又は無記載は何れ？ A 「予告状が出された時、警察は捜査をしなかった」 B 「予告状を出した人物が不明」 C 「モナリザが盗まれた」	Q1 (事実は何れ) の正解はC。 →犯行が予告状通り、実施されているから。 Q2. (真実は何れ) の正解はB。 →予告状を出した人物と実際にモナリザを盗んだ人物は同一人物である可能性が高いというのが、警察の推測である。しかし、犯人は予告状を出していないと主張しているため、2つの本当のことが存在し、事実ではなく真実となる。そして、予告状を出した人にとっては、この事は嘘であるから(自分が出したと分かっているため)。 Q3. (虚偽又は無記載は何れ) の正解はA。 →警察が「判断した」のは事実(題文に書かれている)だが、捜査をしたかどうかは分からない。	記事内に含まれていた事実、真実、虚偽(無記載)として、以下のようなものが挙げられる。 《事実》 - 予告状が出された - モナリザが盗まれた - 盗んだ犯人が逮捕された 《真実》 予告状を出した人物が不明 - 両者(予告状を出した人物と犯行を行った人物)が同一の可能性がある - 予告状が出されていた時点で、警察が捜査していたか不明 《虚偽(無記載)》 - 警察が誤った判断をした - モナリザを盗んだ容疑者は愉快犯 - モナリザを盗んだ容疑者の目的は転売

3.1.1 短文問題の高校生の正解率

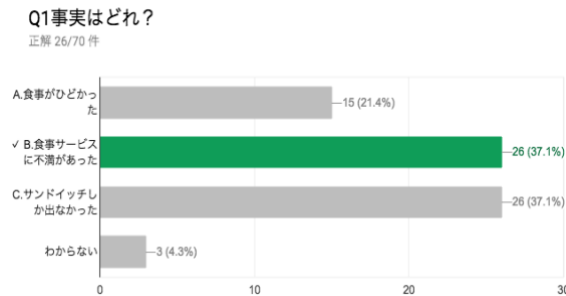


図5：短文第一問目のQ1の正答率

Q2真実はどれ？

正解 27/70 件

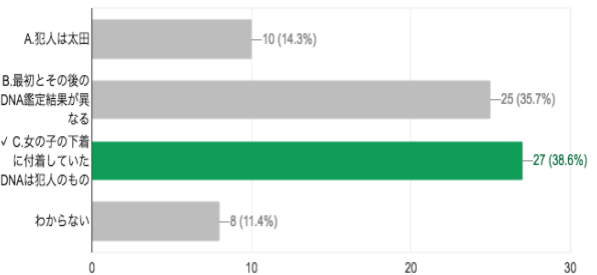


図9：短文第二問目のQ2の正答率

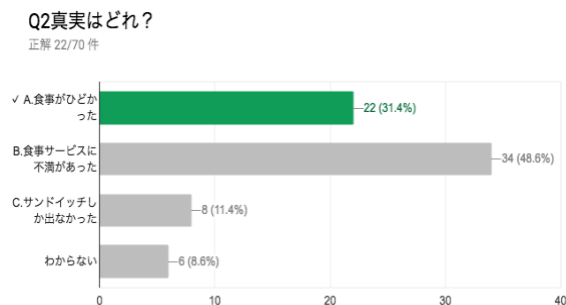


図6：短文第一問目のQ2の正答率

Q3虚偽(無記載)はどれ？

正解 37/70 件

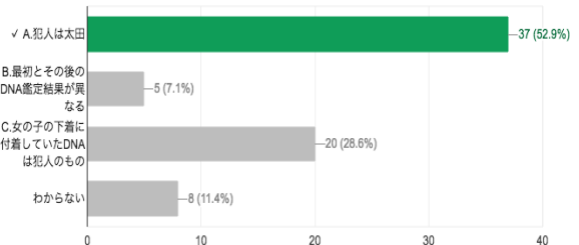


図10：短文第二問目のQ3の正答率

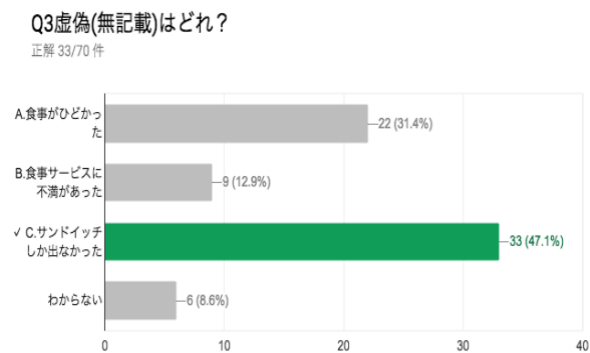


図7：短文第一問目のQ3の正答率

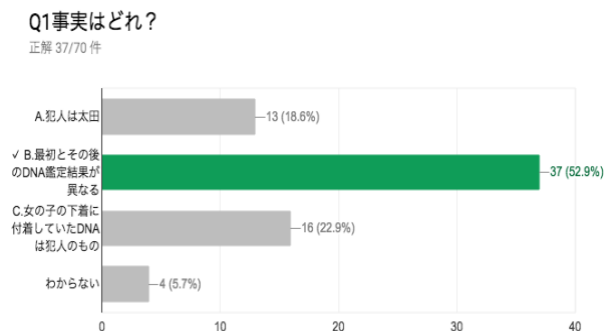


図8：短文第二問目のQ1の正答率

3.2 長文問題の内容 (PART2)

【背景】

発展途上国の鬼ヶ島では、歴史的豪雨の影響により政府の機能がダウンし、国内の主要施設が崩壊し、経済が打撃を受けた。被害総額は9兆7000億万トラにもなる。鬼ヶ島国内の国家予算は年間あたり9500億万トラ、比較しても被害額はかなり痛手である。隣国である桃の島から援助費用として、3兆2300億トラの支援を受けている。生活する場を失った鬼ヶ島人は、桃の島が移民として大量に受け入れ、移民数は前年比325%増となっていた。一方、桃の島ではIT×きびだんごビジネスが発展し、著しい経済成長を遂げた。

【事件】

2570年5月3日、桃の島ピーチ州キビダンダンにて連続殺人事件が起こる。被害者は桃太郎さん(35)で、家路につく道中にて何者かに特殊な細い紐のようなもので、首を絞められたことにより窒息死した。犬田ぼちさん(25)、猿山モン吉さん(27)らは、自宅にて何者かに同じ手口によって殺害され、家の中には荒らされた痕跡がない。後に犯人は桃の島人の太田圭太郎(56)と判明し逮捕される。

【メディアコンテンツ1：記事1(ももたろう新聞)】

3日、桃の島の桃太郎さん(35)らが殺害された事件で、警視庁は連続殺人事件とみて捜査している。警視庁は「一刻も早く連続殺人犯を検挙すべく捜査中だ」と発表した。この事件に対し、犯罪心理学に詳しい桃の島国立大学の浦島太郎教授は「連続殺人は確実だろう。凶器が同じことや家を荒らしていないなどの共通点が多数見受けられるため、犯人はすぐに見つかるだろう。」とコメントした。近年桃の島では鬼ヶ島からの移民により鬼ヶ島人に対する不信感を持つ国民の数が増加傾向にあり、国民からの不満も多く集まっているのが現状だ。

【メディアコンテンツ2：記事2(週刊誌サル)】

「どうせ鬼ヶ島人がやったんでしょ。」

本誌にそう語ったのは桃の島人の鈴木太郎さん(仮名 30歳)。

近年桃の島国内における犯罪率が上がっており、桃の島国民が不信感を持つのも無理はない。本誌は桃太郎氏殺害事件を事件翌日の4日から取材を開始し、殺害された桃太郎さんの母親に話を聞くことができた。母親は次のように語った。「桃太郎は昔から元気で、明るい性格だったんです。ついこの間も『会社で企画が通った!』って電話してきていたんです。」

また、殺害現場の近くにあるコンビニの経営者は移民について、「ここ数年で移民は増えていると思います。うちの店にもよく鬼ヶ島人の方がいらっしゃいますし、鬼ヶ島人のスタッフも雇っています。」と語る。

確かに、犯罪発生率の上昇など国内の治安に関するデータも見られる。やはり鬼ヶ島からの移民の増加と関係があるのだろうか。

移民の反対運動に参加する人は「移民は悪い影響しか与えない。テロが起こるかもしれないし、桃の島人の職が鬼ヶ島人に取られている事実もあるんだ! 桃の島の文化が薄まってもいいのか! 移民はもう受け入れるべきではない! 絶対反対!」と訴えていた。

【メディアコンテンツ3：インタビュー記事】

記者 今日鬼ヶ島から移民してきた山田鬼汰さん(仮名 37歳)から事件についてお話を伺いたいと思います。今回の事件についてどう感じていますか?

鬼汰 こんな事件が起きてしまい、とても悲しい気持ちです。

記者 今回の事件について鬼ヶ島の人々が犯人なのではないかと多くの人は言っていますがどう思いますか?

鬼汰 まだ証拠もないのに僕たちが移民だからといって鬼ヶ島の人を犯人って決めつけるのはおかしいと思います。

記者 また、今回の事件の犯人についてどう思いますか?

鬼汰 私は鬼ヶ島からの移民のせいにしようとした人の犯行だと思います。鬼ヶ島からの移民をよく思っていない桃の島人は沢山いますし・・・

記者 確かに鬼ヶ島からの移民に反対している人は多いですね。桃の島の人についてはどうお思いますか?

鬼汰 移民の僕らにも手助けしてくれる人は沢山いますし、アルバイトとして雇ってくださったりしていただいているので感謝しています。

記者 ありがとうございます。今日のインタビューは以上で終了したいと思います。まだ犯人は特定されていませんが一刻も早く捕まることを願っています。

【メディアコンテンツ4：事件にまつわるツイート】

キビ太郎@kibi_business ✓ (社会学コメンテーター)
2570年5月5日

いちコメンテーターとして思うこと。今回の連続殺人に関する世論は、桃の島人の鬼ヶ島人に対する今までの不満が爆発した結果のように思う。まあ、鬼ヶ島人は、良くも悪くも桃の島に多大な影響を与えた。移民問題に関しては、僕は当初から反対だったね。

RT : 263 ♡ : 483

おともやん@kokohore_wanwan 2570年5月5日

ここまで目撃情報等が出ていて、犯人は鬼ヶ島人と決まったも同然なのに、なぜ警察は犯人を捕まえられない? 鬼ヶ島政府と裏でやりとりをしているのでは? 鬼ヶ島からの移民が増える以前と比べても確実に治安が悪くなったように感じる。桃の島人の不安を増やすだけなら、いつそのこと移民受け入れをやめるべき

RT : 26 ♡ : 52

キジ@sai_kyou_go 2570年5月6日

鬼ヶ島の人がやったって決まったわけじゃないんだし、みんなはやとちりしすぎでしょ。

RT : 5 ♡ : 22

鬼越 拓@taku_tiger ✓ (鬼ヶ島芸能人) 2570年5月7日

あまりにも、全てを鬼ヶ島移民のせいになれすぎ。私たちは、鬼ヶ島がああなってしまったから仕方なく桃の島にきたのに、全てを私たちになすりつけている。私たちは、ただ普通の生活がしたいだけなのに。なぜ、こうなってしまったんだろう。平等な社会はどこ？

RT : 23 ♡ : 41

表3：長文問題(PART2), 問いの内容

番号	問題文	選択肢	正解	解説
第一問	Q：記事1のももたろう新聞の記事は、どちらかという、どの立場に寄っているか。	① 警察の立場 ② 桃の島人の立場 ③ 鬼ヶ島人の立場	②	① 記事の最終文「近年～」から、実際に事件に関係のない国内事情について記載しているため、印象操作が垣間見える。 ② 鬼ヶ島からの移民と今回の事件を結びつけているため、間接的に鬼ヶ島人を批判しているといえる。 ③ 警察に関しては事実を述べているだけ。
第二問	Q：この文章内で実際に起こったことは何か	① 移民が鬼ヶ島から流入してきたことにより、桃の島の文化の存続があぶない ② 鬼ヶ島人が連続殺人などの事件起こしており、桃の島国内の安全性が脅かされている ③ 桃の島人三人が、同じ人物によって同じ手口で殺害された ④ 桃の島人による鬼ヶ島からの移民反対運動が起きている。	④	① 文化の存続と鬼ヶ島からの移民は直接的に関わっているという確実な情報はない。 ② 鬼ヶ島人が連続殺人を実際に起こしたかどうか定かではなく、鬼ヶ島人が要因との確実な情報は存在しない。 ③ 同じ手口で殺人されたのは事実だが、犯人は本当に同一人物によるものかはっきりしていない。あくまで推測である。 ④ 週刊誌サルの「移民反対運動～」から、実際に国民がそのような行動をとったことが読み取れる。
第三問	Q：この中で鬼ヶ島人と桃の島人、どちらをも批判していない情報発信者は次のうちどれか	① ももたろう新聞 ② 週刊誌サル ③ キビ太郎 ④ キジ	④	① 「近年桃の島では鬼ヶ島からの～国民からの不満」の表現から、鬼ヶ島批判の立場であるとわかる。 ② 実際に事件と関係のない事柄を鬼ヶ島人批判の言葉と共にならべ、いかにも鬼ヶ島人が事件を犯したかのように表現している為、鬼ヶ島人批判の立場である。 ③ 「今回の連続～のように思う」というところが桃の島

				人をかばってるような表現になっているため鬼ヶ島人を批判する立場。 ④ 「はやとちりすぎでしょ」の部分など全体的にどちら側にも偏ってない意見。
第四問	Q.鬼ヶ島人が桃の島に与えた影響とは何か	① 鬼ヶ島が桃の島人の税金から支援を受けている ② 鬼ヶ島からの移民の影響で治安が悪化した ③ 桃の島人の移民に対する不満が行動として起こった ④ 移民が来てから著しい経済成長を遂げた	③	① 税金が支援の全てではない。 ② 移民が来てから犯罪発生率は上がったが、移民が原因という確証はない。 ③ 不満が行動として起こった。→反対運動 ④ 経済成長に移民は関係ない。

3.2.1 長文問題の高校生の正解率

【問1：立場チェック】Q記事1のももた...記事は、どの立場からといえば...?

正解 25/70 件

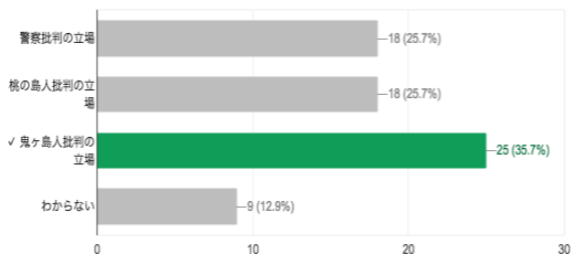


図11：長文問題Q1の正答率

【問3：立場チェック】Qの中で鬼ヶ...れか(最も中立性的な発信者は誰か)

正解 36/70 件

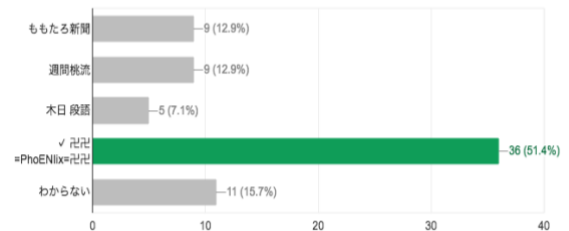


図13：長文問題Q3の正答率

【問2：詳しさチェック(具体性がある...文章内で実際に起こったことは何か?)

正解 26/70 件

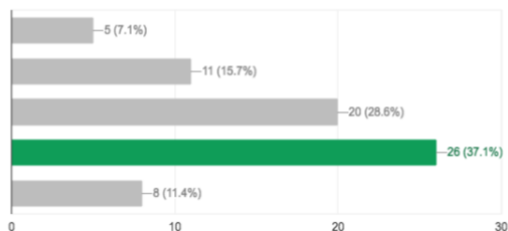


図12：長文問題Q2の正答率

【問4：裏付けチェック(他からも同じ情報が出ているか)】Q 鬼ヶ島人が桃の島に与えた影響とは何か

正解 22/70 件

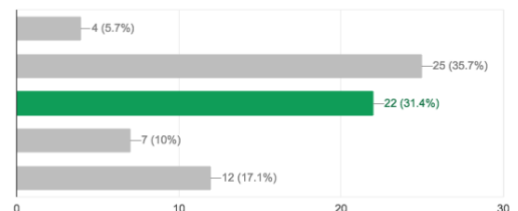


図14：長文問題Q4の正答率

4. 結果(考察)

4.1. 結果

2017年9月に、高校生約70名を対象にメディアリテラシーテスト検証を行った。記述式(PART3)は行わず、短文問題を2問、長文問題を行ってもらった。結果は以下の通り。

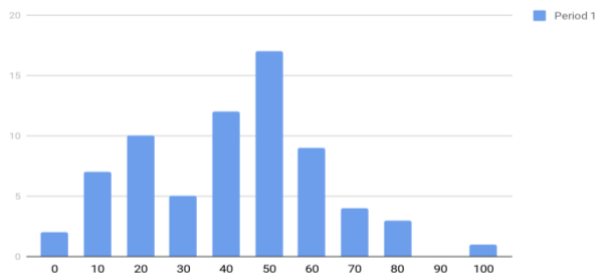


図15：得点分布表

正答率は問題によって変わるものの、40%前後と低い印象を受ける。生徒の感想として、全体的に難しく長いというものが多かった。しかし、ツイート形式のものは理解しやすく、新聞記事形式は読みにくいとの感想もあった。これは、普段彼らが手にしているメディアが強く影響していると考えられる。最後にとったアンケート「メディアリテラシーとは成熟した民主主義に必要だと思いますか」に対しては75%が「そう思う」と答え、テストを通じて一定の意識向上は図れたと考える。

このテストでは、真実と事実の見分けが難しく正答率が低いと仮説を私たちは立てていたが、結果として虚偽に関しても正答率が低かった。理由として様々な要因が考えられるが、顕著な例としては短文1問目(Q1～3, 図5～7)であれば、「サンドイッチ」という固有名詞が問題文と選択肢の双方に出てきており、明確な言葉であるためにつられてしまったというのが挙げられるだろう。

また、今回のテストを受けた生徒たちは、学校の教育プログラムである新聞を使ったNIE (Newspaper in Education) という授業を普段から受けているため、情報の収集能力や理解力は一般の高校生に比べ、高いことが予想される。そのため、日本国内における一般的な高校生のメディアリテラシー能力は、ここに示した結果より低い正答率になることが予想される。

メディアリテラシーとは成熟した民主主義社会に必要なと思いますか？

70 件の回答

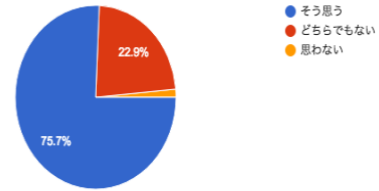


図16:最後にとったアンケート結果

4.2. 残る課題

このテストは、しっかり解いてもらえれば「真実と事実を見分ける能力」「メディア・コンテンツの正確な受け取り能力」「メディア・メッセージを要約する能力」などが身につくように設計できていると考える。しかし、実際全てを解いてもらうと最長で30分程かかってしまい、中高生にとっては文章も長く難しいと言われてしまった。また、真実と事実の違いを理解することは難しく、両者の定義を把握するための練習問題をはじめにいくつか設定することが必要である。「簡単に普及させられるように」という思いでテスト形式にしたものの、これではそもそも小中高生が解いてくれるかが疑問で、このままでは普及されにくいはずだ。

もう一つの盲点として、動画や写真などのメディア形態がないことが挙げられる。今日の情報化社会ではメディア形態も進化しており、動画や写真などの視覚的メディアが人々の獲得する情報の多くを占めるまでとなった。そのためこのテストを改善していく際は動画や写真も取り入れたい。

4.3. 最後に

メディアリテラシー教育は、過去の数十年のメディア形態の変容に伴い、進化してきた。それに伴いメディアリテラシーという言葉自体も、着実に定義されていった。しかし、メディア形態の変容は止まるところを知らない。それに追いつくべく、さらに革新的な教育が必要なのかもしれない。アメリカのCheckology (学生向けのメディアリテラシー教育サイト。教員が学生の成績管理もでき、学生はゲーム感覚でスマホからできる。世界で約100万人が

受けた。)やBad News Game (フェイクニュースをできるだけ拡散させることを目標としたゲーム。拡散の手法を学ばせる事でメディアリテラシーをつけさせる, いわば毒には毒を方式。)には心より敬服する。このような, 他国の情報化社会の学生へ向けた教材を翻訳し, 日本に取り入れるのも良い案だと考える。

それに加え, 発信側のIT教育も誤情報や偽情報を防ぎ, 成熟した民主主義を目指すにあたり必要不可欠だ。急速に発展したテクノロジーによって拡散するようになった, いわゆるフェイクニュース。それを防ぐには, IT教育が必要であるというのはグローバルなコンセンサスであり, 既にBBCやFirst Draftをはじめとした, 多くの団体は無料のオンラインコースを提供している。

メディアリテラシーを高めるには, 包括的なアプローチが重要であることを忘れず, 今後も研究していきたい。

謝辞

本論文の執筆にあたり, 多くの方々に多大なる議論の時間とご尽力を賜った。心から感謝を申しあげたい。

ご多忙の中, 去年の春よりずっと応援して下さった情報スタビライザー/時々ジャーナリスト下村健一先生, リテラシーテスト作成過程で幾多の助言をして下さったワセダクロニクル編集長渡辺周氏, 特別講義などを通じて世界の現状を教えてくださいました早稲田大学政治経済学術院教授高橋恭子先生, 多くの素晴らしい情報発信と共にご助言いただいた法政大学キャリアデザイン学部助教授坂本旬先生, ゼミプロジェクトへ鋭い意見をいただいた慶應義塾大学名誉教授/首都大学東京理事長島田晴雄先生, 政策提言をご覧いただいた参議院議員橋本聖子氏, Fact-check Initiative Japanにて意見交換して下さった日本報道検証機構代表理事楊井人文氏, そして精神的な面も含めて支えて下さった郁文館グローバル高等学校の先生方, メディアデザインゼミリテラシー班の太田圭祐君, 高木将吾君, 甲高佑梨君, 岩井隆之介君に深謝の意を表する。

その他, 素晴らしい記事を執筆された記者の方々, 膨大な時間をかけて著書を出された方々, その記事と著書の叡智から多くのヒントをいただいたことに深く感謝を申し上げる。最後にこの研究の成果と

メディアリテラシーテストを社会へと大きく発信する機会をくださったICT CONNECT 21赤堀侃司会長と学びフェスタ主催者である小村俊平氏に感謝する。

参考文献

キャロリン・ウィルソン アルトン・グリズル ラモン・トゥエイゾン クワメ・アキヤンボン チーキム・チャン(2014)教師のためのメディア・情報リテラシーカリキュラム, UNESCO(国際連合教育科学文化機関)出版, place de Fontenoy (フランス)

坂本 旬, 中村 正敏, 高橋 恭子, 村上 郷子, 中山 周治 (2009)「メディア・リテラシー教育の挑戦」(第1章) アドバンテージサーバー

特別寄稿の背景

郁文館グローバル高校3年生(当時)の段エディさんは, 2018年3月の「新しい学びフェスタ」(主催: ベネッセコーポレーション, 共催: 聖学院中学高等学校)において, 「疑う力をつける! メディアリテラシーテスト」と題した研究発表を行い, 最優秀賞および本誌編集委員長である赤堀侃司先生による審査員特別賞を受賞した。本稿は, その研究発表の内容をもとに寄稿されたものである。

新しい学びフェスタは, 2011年から続く中高生向けの教育イベントである。毎年20校程度の中高生が集まり, 学校内外で学んだプロセスや成果を披露し, 各分野の研究者らとともに対話を続けている。

2018年は, STEM分野だけでも, 「車椅子補助ロボット」「バナジン酸ビスマス」等の印象的な発表が行われた。その中でも本稿の研究発表は, ①SNS上のフェイクニュースが話題になった時期にメディアリテラシーに着目した, ②メディアリテラシーを測定するオンラインテストを作成し, 高校生たちのデータを集めて分析した点が高く評価された。

今後, 本稿のようなSTEMを意識した研究が全国各地の高等学校で活発化していくことを期待し, 特別寄稿として収録した。多くの方にお読みいただければ幸いである。

ベネッセコーポレーション 教育イノベーション推進課・新しい学びフェスタ実行責任者 小村俊平